

ことしの夏の特別展

相模川流域の横穴墓

夏期特別展「相模川流域の横穴墓」

会期 昭和60年7月20日から8月30日まで

会場 博物館特別展示室

古代の墓制の一つとして、古墳時代後期（AD 500年）以降になると、従来の盛土による古墳の他に、山の斜面に横穴を掘った横穴墓が爆発的に造られるようになります。

この横穴墓は横穴式石室をもった古墳と内部構造が非常に類似しています。横穴石室は石室内部を「黄泉国」と想定し、現世を再現する葬送観念にもとづいて構築されたと考えられており、横穴墓も、横穴式石室を媒体として、古代葬送観念と墓制構造を横穴構築にとり入れた墓制の一形態と考えられています。



▲ 群をなし数段にわたって構築されている。

（万田八重久保横穴）

▼ 遺体埋葬状況を再現 （万田熊ノ台横穴）



横穴墓は北海道、四国を除いた各地方に造られており、関東地方でも埼玉県、神奈川県、千葉県、東京都に広く分布しています。神奈川県内でも特に大磯丘陵上には全国的にもまれに見る密集地として、早くから学界に周知されています。今回の特別展は最近の調査によって明らかになった熊ノ台、八重久保、宮ノ入の各横穴から出土した資料を中心に、相模川流域の横穴墓の様相を探ります。

夏期特別展

相模川流域の横穴墓

1984年 7月20日～8月30日

平塚市宮ノ入横穴墓の線刻画



○講演会「余綾・大住郡の横穴墓」

講師 杉山博久先生

8月18日（日）13時30分から

●史跡めぐり「大磯丘陵の横穴墓」

講師 鈴木一男先生